

3 戦略的マルチクラウド活用

DX 推進に不可欠なマルチクラウド その有効活用に必要なすべてのプロセスを支援

デジタルトランスフォーメーション（以下、DX）の推進にはマルチクラウドの活用が欠かせない。しかしマルチクラウド環境を導入して有効活用するための課題が山積みで、本来のメリットを享受できていないケースが多い。NTTコミュニケーションズ（以下、NTT Com）は豊富なノウハウを活かし、そうした課題に取り組む企業を支援する活動に力を入れている。

DX 推進に不可欠なマルチクラウド活用とその難しさ

NTT Com は DX を推進する上で重要なことを「アジャイルな開発と実行」、「オープンイノベーション」、「バリューアップ業務への集中」と考えている。そうしたアクションを実践するには、AI や IoT などの分析系、メールシステムなどの情報系、基幹系システムや公開 Web サーバーなどさまざまな用途のシステムについて、プライベート IaaS、パブリック IaaS、PaaS、SaaS などの各種クラウドサービスを適切に組み合わせることで実現することが不可欠だ。

しかし総務省が行った“平成 29

年通信利用動向調査”では、国内企業の 50% 以上が何らかの形でクラウドを利用しているものの、全社的にクラウドを活用している企業は 30% 未満であった。

「適材適所でクラウドを組み合わせ、それらを管理・連携させるためには、複数のクラウドスキルを習得する必要があります。複雑なセキュリティ管理も必要です。さらに IT 部門、業務部門のシステムオーナー/ユーザーといったように、ステークホル



NTTコミュニケーションズ株式会社 ICT コンサルティング本部
(左) 担当課長 佐藤 秀昭氏 (中央) 原田 光帆氏
(右) 南葉 潤一氏

ダーの立場もさまざまです。こうしたことに起因する複雑さから、クラウドの導入が進まない、または導入してもマルチクラウド本来のメリットを享受できていない、というケースが少なくありません。戦略的にマルチクラウドを活用することが重要です。」(南葉氏)

「戦略的なマルチクラウド活用」のための 3 つの勘所

マルチクラウドを有効に活用するために特に重視すべき勘所が 3 つある (図 1)。以下に事例を交えて紹介する。

導入検討:

最適なプラットフォーム選定

「プラットフォームの選定はシステムや業務ごとの個別最適になりがちです。そうならないよう、NTT

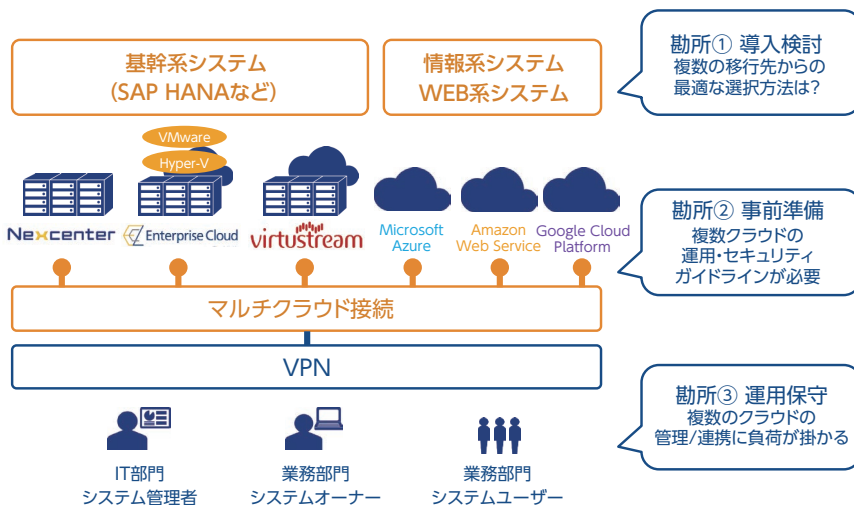


図 1 「戦略的なマルチクラウド活用」のための 3 つの勘所

Com はインフラの高い技術と現場で培ってきたノウハウに基づき、すべてのシステム・業務について『ピーク性』、『トラフィック量』、『停止スケジュールの必要性』、『CPU コア数に応じた課金型ライセンスの利用状況』などの特性を多角的、定量的に診断します。その結果をベースに全体最適となる解を導き、最適なプラットフォームを提案することが可能です。」(原田氏)

既存 IT インフラの老朽化を契機にコンサルティングしたお客さまの事例では、パブリッククラウドの活用に加えて、既存のオンプレミスシステムを、ホスティング型のプライベートクラウドやオンデマンド型のベアメタルサーバーへ移行した。こうした組み合わせにより、物理サーバーを 1/10 に減らし、リソース集約することに成功した。

事前準備：

運用・セキュリティガイドラインの作成

初めてクラウドを導入する場合は特に、「新しい環境が現場にとって使いづらい」という理由から、導入メリットを活かせないことが珍しくない。そういう事態にならないように、既存の運用をしっかりと考慮することが重要だ。

NTT Com は大規模な IT インフラの運用経験が豊富であることに加え、さまざまなパートナーとの協業を通じ、クラウドサービスの運用に関する高度なノウハウを蓄積し続けている。そのノウハウを活かした運用ガイドラインの策定支援も強みの 1 つとなっている。

あるお客さまの事例では、NTT

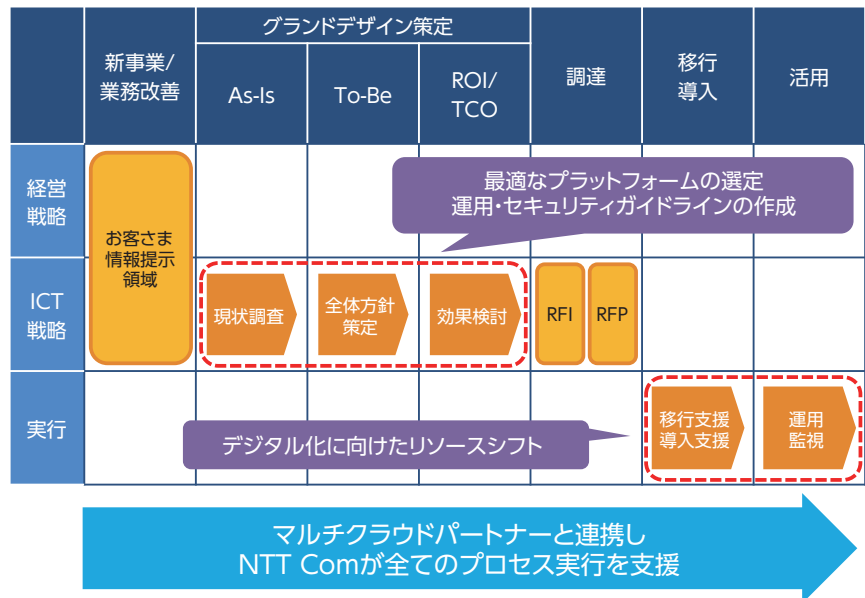


図 2 DX 推進のためのマルチクラウド活用プロセス

Com のノウハウに加えて、お客さま責任者、開発者、利用者が参加するワーキンググループを立ち上げ、現場の運用実態に合わせたガイドラインを策定した。またステークホルダー別にドキュメントを整備し、それぞれが必要とする情報をすぐに確認できるよう工夫した。セキュリティ対策ソリューションに、このガイドラインを組み合わせることで、2017 年に運用を開始して以降、セキュリティインシデントは 1 件も発生していない。

運用保守：

デジタル化に向けたリソースシフト

既存のシステム運用負荷を軽減しバリューアップ業務に集中するには、限られた人的リソースを有効活用する必要がある。そこで NTT Com はマルチクラウドからネットワークまで一元的に運用を担い、お客さまの稼働削減に貢献している。

加えてお客さまと DevOps を実現し、多くの PoC (Proof of Concept)

を実施することで、迅速なシステム開発を可能にしている。あるお客さまの事例では、日々の運用の中で PJ メンバーが既存データウェアハウス基盤のコストや拡張性といった課題を抽出し、それらを解決するための最適なソリューション “Azure SQL Data Warehouse” を選定。さらに迅速な PoC により、スピーディーなシステム導入を実現している。

マルチクラウド活用に必要なプロセスをすべて支援

「これら 3 つの勘所だけでなく、事前のアセスメントからグランドデザインの策定、セキュリティ対策ソリューションを含めたマルチクラウド環境の導入、運用、活用まで実施できる体制とノウハウがあります(図 2)。クラウドの本格的な活用をお考えのお客さまは、是非 NTT Com にご相談ください。」(佐藤氏)